

登録コード	E2016900	開講年度	2026				
授業科目	古典文学演習				担当教員	西 一夫	
英文授業名	Seminar in Japanese Classics Literature				副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限	対象学生	3・4年
講義室	教育M402講義室	授業形態	演習	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				中等教育における古文教材としての和歌の位置づけを理解し、既存の教材研究の在り方に囚われず、資質・能力の育成を目指す学習指導要領の趣旨に添った基本的な教材研究の方向性と具体的な教材研究の在り方を理解・習得して教材化の基本的な方法を理解することができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・中等教育の教科書の再録されている和歌教材を悉皆調査し、それぞれの教科書での教材化の在り方を整理・分析して具体的な学習活動の見通しや教材化の工夫を検討する。 ・その上で現行の主要な注釈書を取り上げながら注釈をおこなう。さらに担当和歌を現代語訳する。 ・さらに新たな学習観に基づく学習の手引きを作成して学習活動の提案を行う。 ・上記の報告を受けて受講生との検討を行う。 第1・第2回は教員が概説と模範演習を行い、第3回目以降は受講者で分担を決めて具体的な演習によって授業を展開する。						
(5)授業計画	担当教員が中等教育の実務経験を活かして講義します。 第1回：ガイダンス：中等教科書での和歌教材、文献操作・処理の方法など 第2回：模範発表(資料の作成方法など) 第3回：『万葉集』 演習1（額田王・人麻呂） 第4回：『万葉集』 演習2（山部赤人・大伴旅人） 第5回：『万葉集』 演習3（山上憶良・大伴家持） 第6回：『万葉集』 演習4（防人歌・東歌） 第7回：『古今集』 演習5（小野小町・在原業平） 第8回：『古今集』 演習6（紀貫之） 第9回：『古今集』 演習7（藤原敏行・僧正遍照） 第10回：『古今集』 演習8（詠み人知らず） 第11回：『新古今集』 演習9（藤原定家・寂蓮） 第12回：『新古今集』 演習10（藤原俊成・後鳥羽院） 第13回：『新古今集』 演習11（式子内親王・慈円） 第14回：『新古今集』 演習12（西行）・授業アンケート						
(6)成績評価の方法	■成績評価の考え方は、以下の通りである。 ・授業の達成目標1の和歌教材の教材観を測る毎回の教材研究に対する到達度を測る振り返り作成 5点、12回＝60点 ・授業の達成目標1の新たな教材研究に対する到達度を測る最終評価レポート 40点（レポート概要：授業で取り上げなかった教材等を用いて評価問題を作成する） ■得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習として以下の内容が求められる：取り上げる和歌教材の教科書の脚注や学習の手引きを確認しておく。 事後学習として以下の内容が求められる：取り上げた和歌教材の解釈の妥当性と教材化の具体の検討 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	・各自が担当する作品のみならず、事前学習での教科書内容の検討は各自が主体的におこなうことが肝要である。 ・標準履修年次は3・4年とする。2年次での履修を希望する場合には、古文に関する基礎的な知識・技能を有することを前提とする。上記のような資質・能力を有していないと判断する場合には履修を認めない。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また，オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は，その他の時間でも可。 研究室：中校舎 4 F 4 0 8 内線番号：4 0 7 2 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	和歌教材の教科書資料は、eALPSに提示する。
【参考文献】	中学校・高等学校学習指導要領国語科・解説